

平成17年度建設副産物実態調査結果について (東北地方版)

平成18年12月8日
東北地方建設副産物
対策連絡協議会

東北地方建設副産物対策連絡協議会は、平成17年度に東北地方の建設工事から排出された建設副産物^{注1)}を対象として、排出量、再資源化等の状況について調査を行いました。今回、この調査結果がとりまとまりましたので、公表致します。

注1) 建設副産物：建設工事に伴って副次的に得られる物品であり、建設発生土（建設工事の際に搬出される土砂）及び建設廃棄物（コンクリート塊、建設発生木材など）の総称。

調査結果の概要

1. 排出量の動向

東北地方における平成17年度の建設廃棄物の排出量は約685万トン、建設発生土の排出量は約1,885万m³となりました。これは、前回調査平成14年度と比較すると、建設廃棄物で約16%、建設発生土で約33%の減少となっています（次頁参照）。

2. 再資源化等の状況

東北地方における建設廃棄物の再資源化等及び土砂の再生利用の状況を前回平成14年度調査と比較すると、次のとおりです。

	平成14年度	平成17年度	増減
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率 ^{注2)}	98.9%	97.8%	1.1ポイント減
コンクリート塊の再資源化率	95.9%	98.4%	2.5ポイント増
建設発生木材 ^{注3)} の再資源化率	44.2%	59.3%	15.1ポイント増
建設発生木材の再資源化等率 ^{注4)}	83.7%	86.2%	2.5ポイント増
建設汚泥の再資源化等率	55.7%	88.2%	32.5ポイント増
建設混合廃棄物の排出量	18.8万トン	21.5万トン	2.7万トン増
建設廃棄物の再資源化等率	93.0%	93.4%	0.4ポイント増
利用土砂の建設発生土利用率(100%現場内完結工事除く) ^{注5)}	49.9%	42.6%	7.3ポイント減
利用土砂の建設発生土利用率(100%現場内完結工事含む) ^{※1}	72.1%	70.5%	1.6ポイント減

3. 「東北地方建設リサイクル推進計画2002」の進捗状況

	平成17年度 実績値	平成17年度 目標値	平成22年度 目標値
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	97.8%	未達成 98%以上	未達成 98%以上
コンクリート塊の再資源化率	98.4%	達成 96%以上	達成 96%以上
建設発生木材の再資源化率	59.3%	未達成 60%	未達成 65%
建設発生木材の再資源化等率	86.2%	未達成 90%	未達成 95%
建設汚泥の再資源化等率	88.2%	達成 60%	達成 75%
建設混合廃棄物の排出量削減(H12比) ^{注6)}	40.9%削減	達成 25%削減	未達成 50%削減
建設廃棄物の再資源化等率	93.4%	達成 88%	達成 91%
利用土砂の建設発生土利用率(100%現場内完結工事除く)	42.6%	未達成 75%	未達成 90%
利用土砂の建設発生土利用率(100%現場内完結工事含む) ^{※2}	70.5%	— 未設定	— 未設定

注2) 再資源化率：建設廃棄物として排出された量に対する、再資源化された量と工事間利用された量の合計の割合。

注3) 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

注4) 再資源化等率：建設廃棄物として排出された量に対する、再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計の割合。なお、再資源化等とは、再資源化及び縮減のこと。

注5) 利用土砂の建設発生土利用率：土砂利用量（搬入土砂利用量+現場内利用量）のうち土質改良を含む建設発生土利用量の割合。

注6) 平成12年度における東北地方の建設混合廃棄物排出量は、36.4万トン

※1及び※2については補足事項があります（「別紙」参照）。

<発表記者會：宮城県政記者會、東北電力記者クラブ、東北専門記者會>

※本省で全国版を同時発表しております

<問い合わせ先>

国土交通省 東北地方整備局 企画部 技術管理課長 村上 和夫 (内線3311)
技術管理課長補佐 及川 勝朋 (内線3315)
TEL 022-225-2171 (代表)

表 1. 建設廃棄物の排出状況

		場外排出量(万トン)			
		再資源化量	縮減量	最終処分量	
H 1 4	アスファルト・コンクリート塊	406	401	0	4
	コンクリート塊	309	297	0	13
	建設発生木材	46	20	18	7
	建設汚泥	30	14	2	13
	建設混合廃棄物	19	1	2	16
	その他(金属くず、廃プラスチック類など)	10	6	0	4
	建設廃棄物全体	820	740	22	57
H 1 7	アスファルト・コンクリート塊	236	231	0	5
	コンクリート塊	306	301	0	5
	建設発生木材	47	28	12	6
	建設汚泥	52	40	6	6
	建設混合廃棄物	22	2	2	18
	その他(金属くず、廃プラスチック類など)	22	16	1	5
	建設廃棄物全体	685	617	22	45

注 1) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

表 2. 建設発生土の排出状況及び土砂の利用状況

H 1 4	建設発生土の排出状況	場外排出量(万m ³)					現場内利用 (万m ³)	
		工事間利用	再資源化施設	海面処分場	内陸受入地			
		2,820	789	85	0	1,947		
	土砂の利用状況	搬入土砂利用量(万m ³)						
		新材利用	工事間利用	土質改良土	建設汚泥改良土	再生砂		
	100%現場内完結工事除く	2,055	1,164	789	85	—	18	270
	100%現場内完結工事含む ※3	2,055	1,164	789	85	—	18	2,119
H 1 7	建設発生土の排出状況	場外排出量(万m ³)					現場内利用 (万m ³)	
		工事間利用	再資源化施設	海面処分場	内陸受入地			
		1,885	455	35	1	1,394		
	土砂の利用状況	搬入土砂利用量(万m ³)						
		新材利用	工事間利用	土質改良土	建設汚泥改良土	再生砂		
	100%現場内完結工事除く	1,458	955	455	35	5	8	204
	100%現場内完結工事含む ※3	1,458	955	455	35	5	8	1,779

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

※3については、補足事項があります(「別紙」参照)。